

2025年日本国際博覧会 環境影響評価準備書のあらまし

公益社団法人2025年日本国際博覧会協会

ご説明の順序

1. 環境影響評価の手続

2. 事業計画の内容

3. 環境影響評価結果

3 - 1. 調査、予測及び評価の結果

3 - 2. 総合評価

3 - 3. 事後調査の方針

4. 環境影響評価準備書の縦覧について

5. 意見書提出先

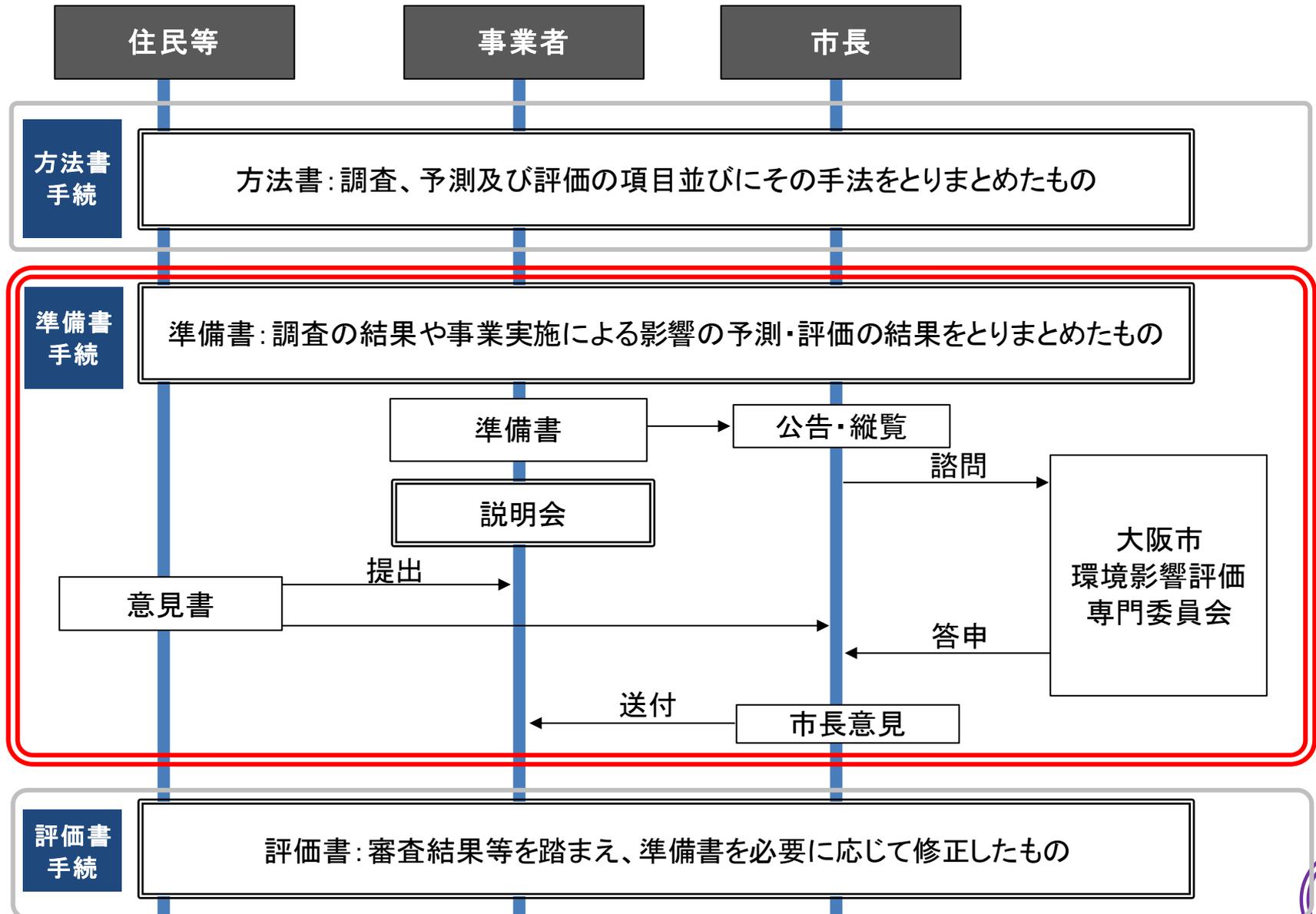
1. 環境影響評価の手続

環境影響評価とは

環境影響評価制度とは、大規模事業を実施しようとするときに、事業者自らが、あらかじめその事業が環境にどのような影響を及ぼすのかを調査・予測・評価し、その結果を公表して、住民等の意見を聴きながら、環境の保全や創造について適正な配慮をするための制度です。

- 今回の万博は、**大阪市環境影響評価条例**の対象事業に該当
会場：開発行為（施行区域面積 50ヘクタール以上）
（仮称）舞洲駐車場：駐車場（同時駐車能力 1,000台以上）
（※万博会場及び舞洲駐車場を一体として手続き実施）

環境影響評価の手續き



2 . 事業計画の内容

事業の概要

名称	2025年日本国際博覧会
テーマ	いのち輝く未来社会のデザイン
位置	此花区夢洲（会場予定地） 此花区舞洲（（仮称）舞洲駐車場予定地）
面積	会場予定地：約159ha （仮称）舞洲駐車場予定地：約31ha （約9,000台想定）
開催期間（予定）	2025年4月13日から2025年10月13日まで
開催時間（予定）	午前9時から午後10時まで
想定入場者数	約2,820万人

事業計画位置



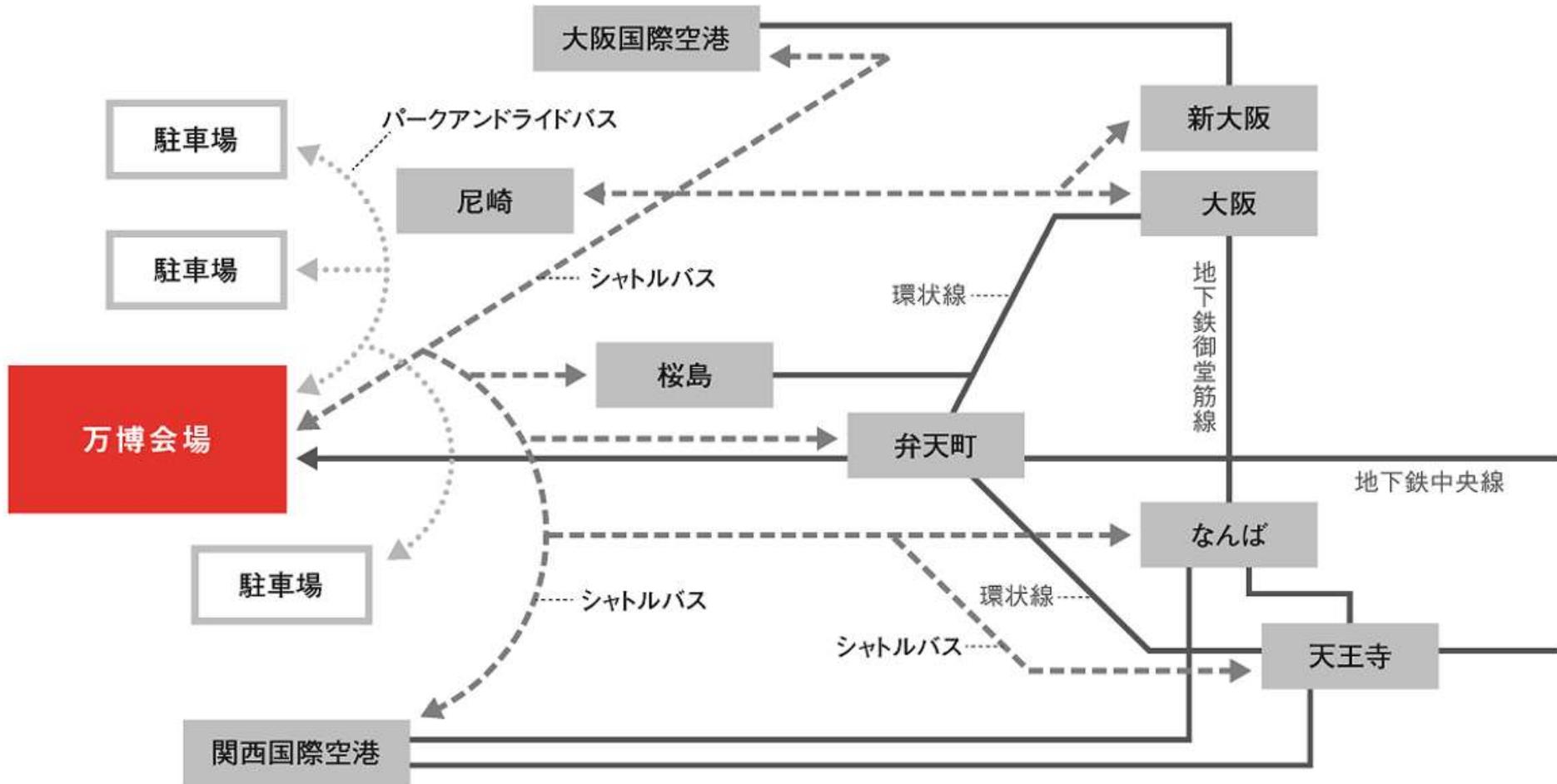
完成予想図 (会場イメージ)



会場配置計画

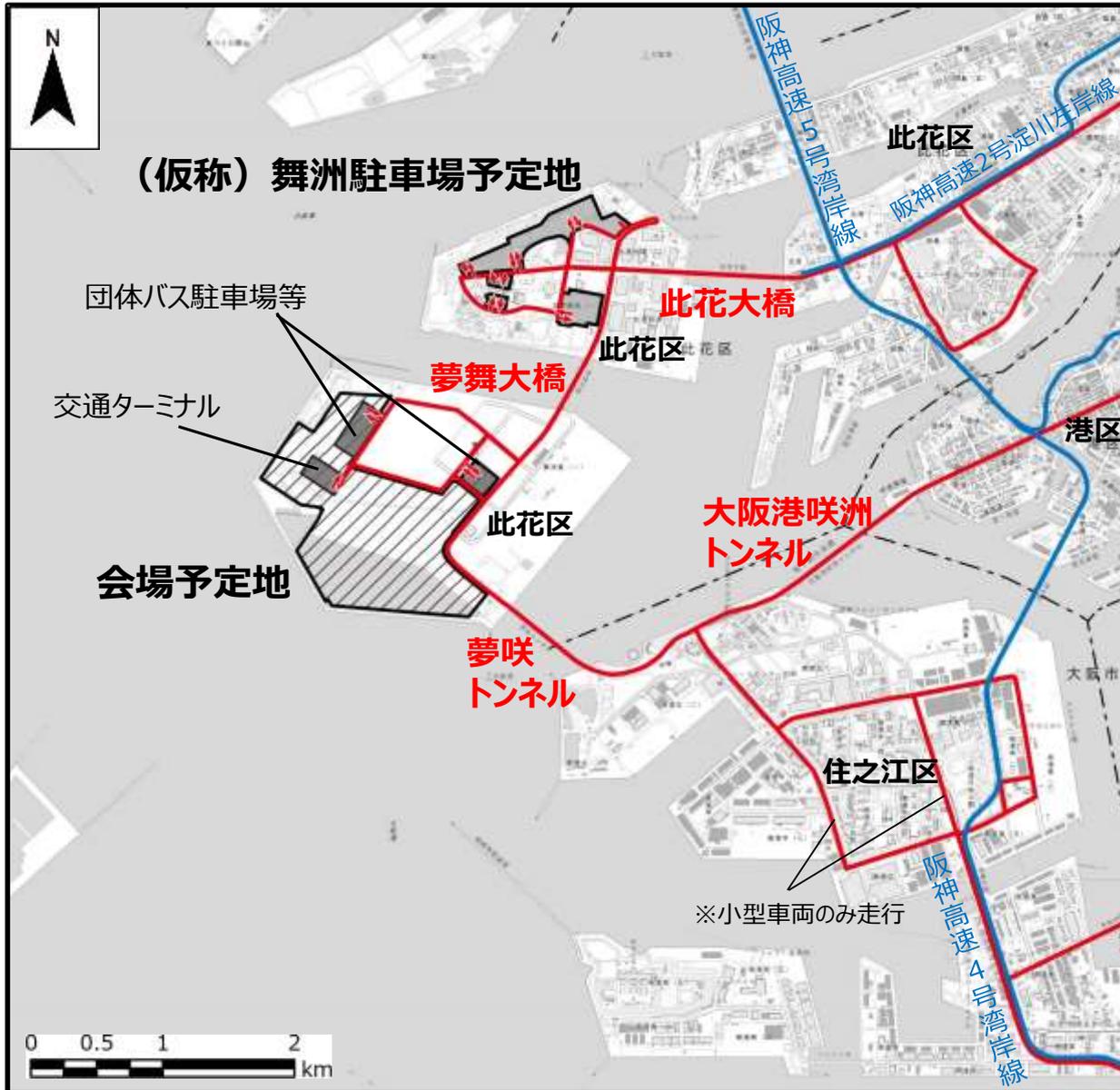


会場へのアクセスルート



シャトルバス発着主要駅(想定)
 シャトルバス
 パークアンドライドバス
 鉄道アクセス

供用時の関連車両の主要な走行ルート



凡例

-  会場予定地
-  (仮称) 舞洲駐車場予定地
- 市区界
-  車両入口
-  車両出口

供用時の関連車両
主要走行ルート

-  都市高速道路
-  一般道路

注：走行ルートは現時点での計画を示しており、今後の周辺道路の整備状況等により変更となる可能性があります。

この地図は、国土地理院の電子地形図25000をもとに作成しました。

工事計画

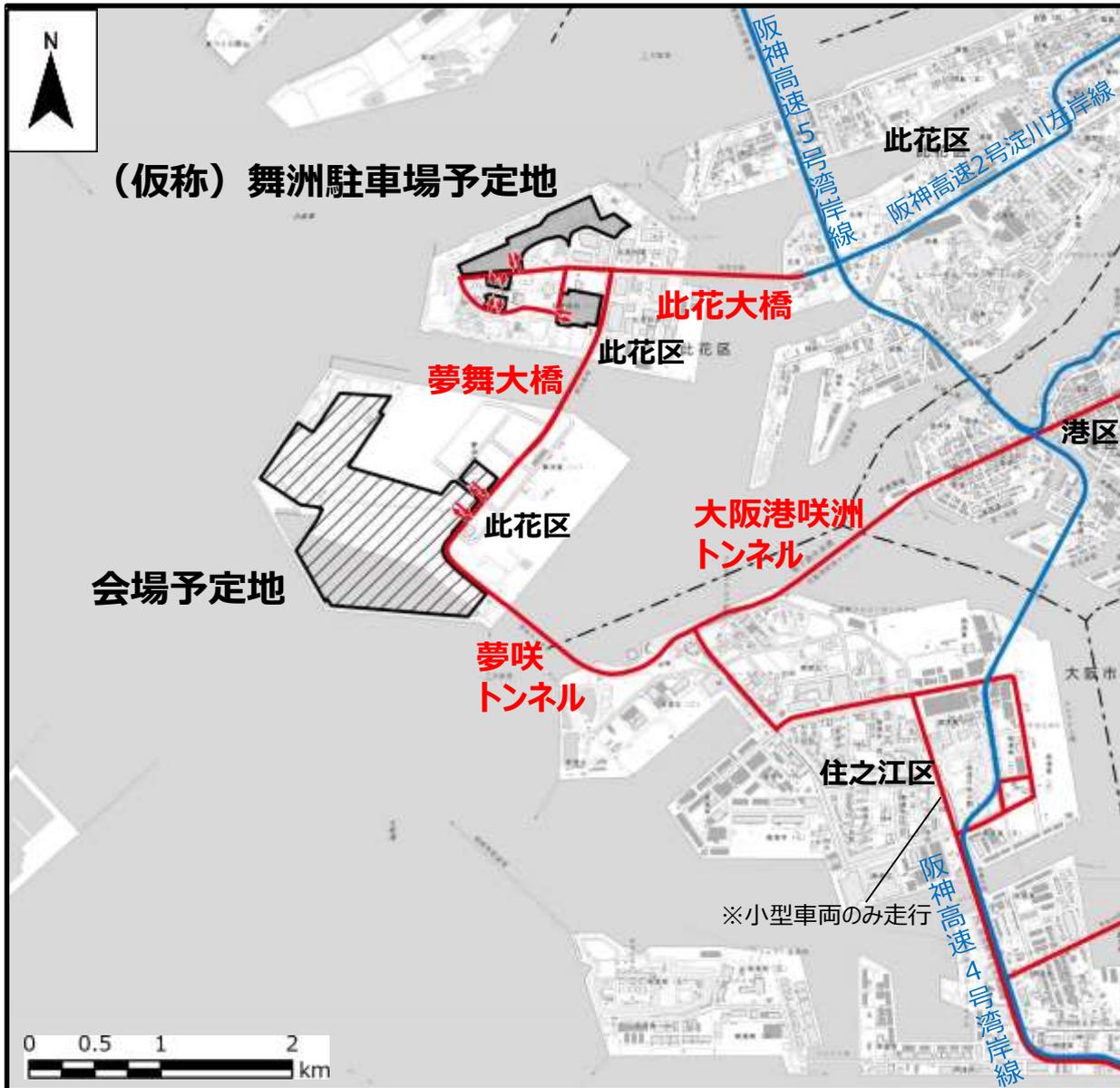
会場予定地の工事日程

工事内容	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
造成・インフラ工事	■				
パビリオン等建築工事		■			
開催・供用期間				■	
撤去工事				■	■

(仮称) 舞洲駐車場予定地の工事日程

工事内容	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
敷均し・敷地造成工事			■		
建築・設備設置工事			■		
開催・供用期間				■	
撤去工事				■	

工事関連車両の主要な走行ルート



凡例

-  会場予定地
-  (仮称) 舞洲駐車場予定地
-  市区界
-  車両入口
-  車両出口

**工事関連車両
主要走行ルート**

-  都市高速道路
-  一般道路

注：走行ルートは現時点での計画を示しており、今後の周辺道路の整備状況等により変更となる可能性があります。

この地図は、国土地理院の電子地形図25000をもとに作成しました。

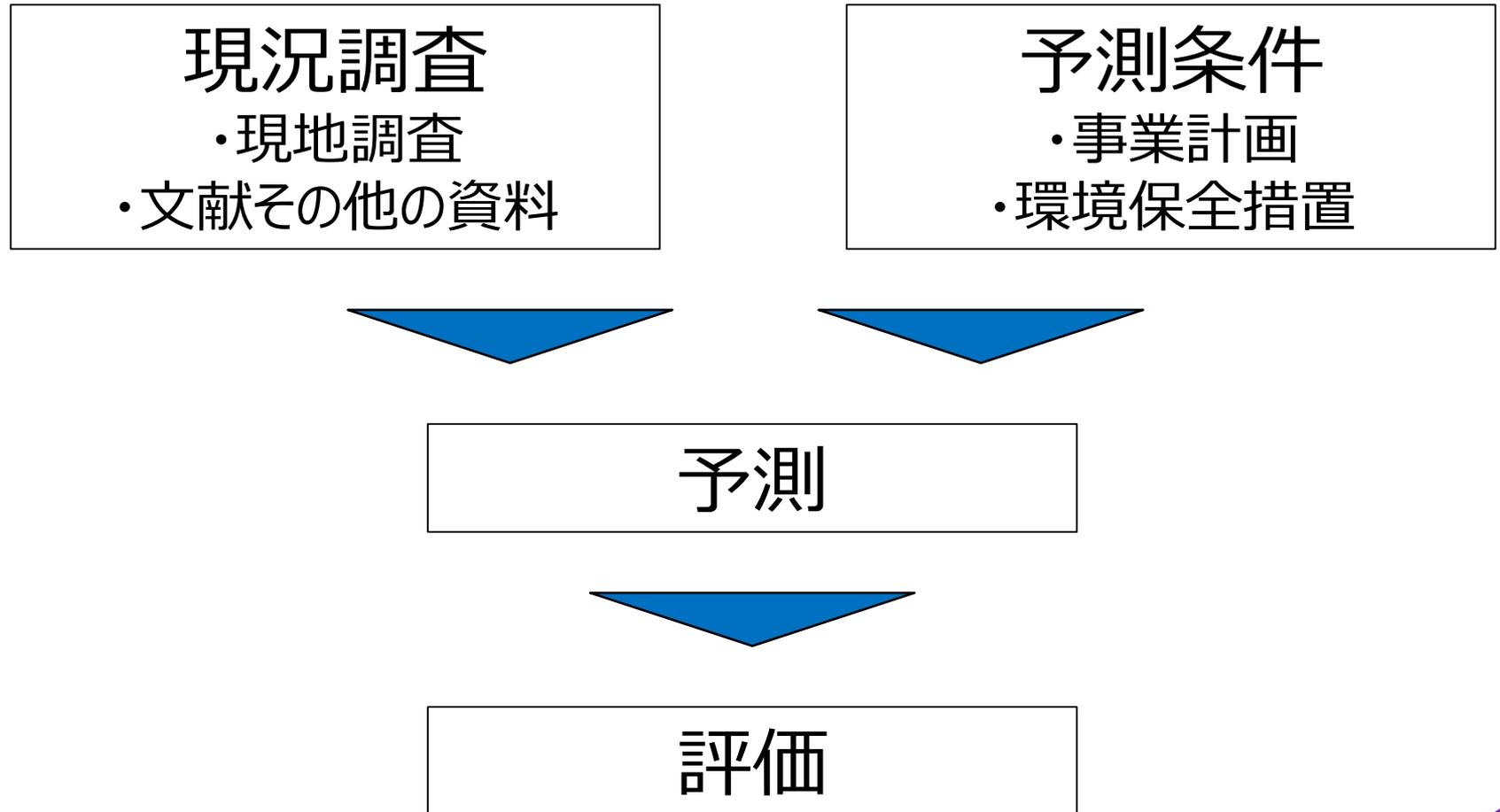
3. 環境影響評価結果

3-1. 調査、予測及び評価の結果

3-2. 総合評価

3-3. 事後調査の方針

環境影響評価の流れ



環境影響評価項目

I 大気質

II 水質

III 土壌

IV 騒音・振動・低周波音

V 廃棄物・残土

VI 地球環境

VII 陸域動物・陸域植物・
陸域生態系

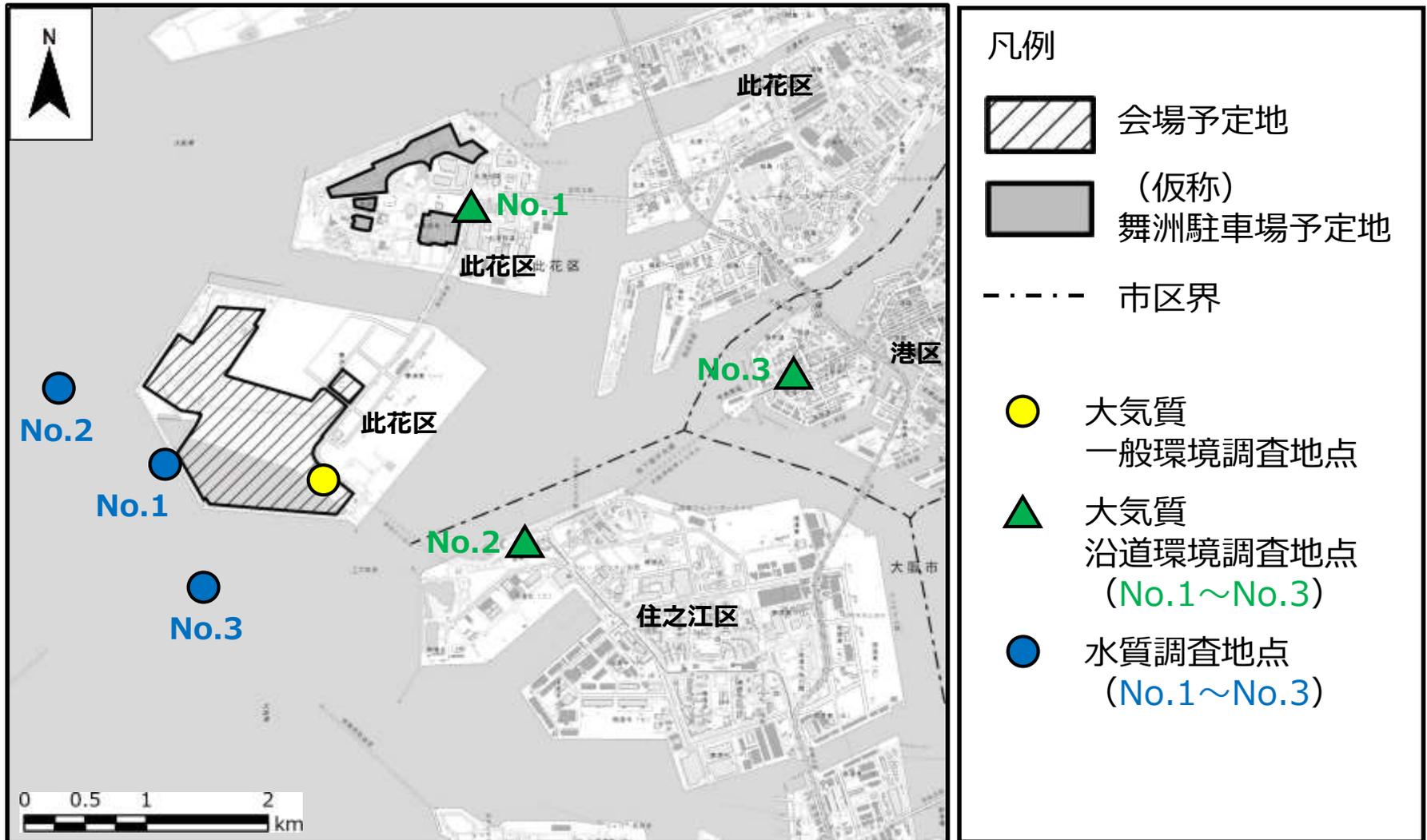
VIII 海域動物・海域植物・
海域生態系

IX 景観

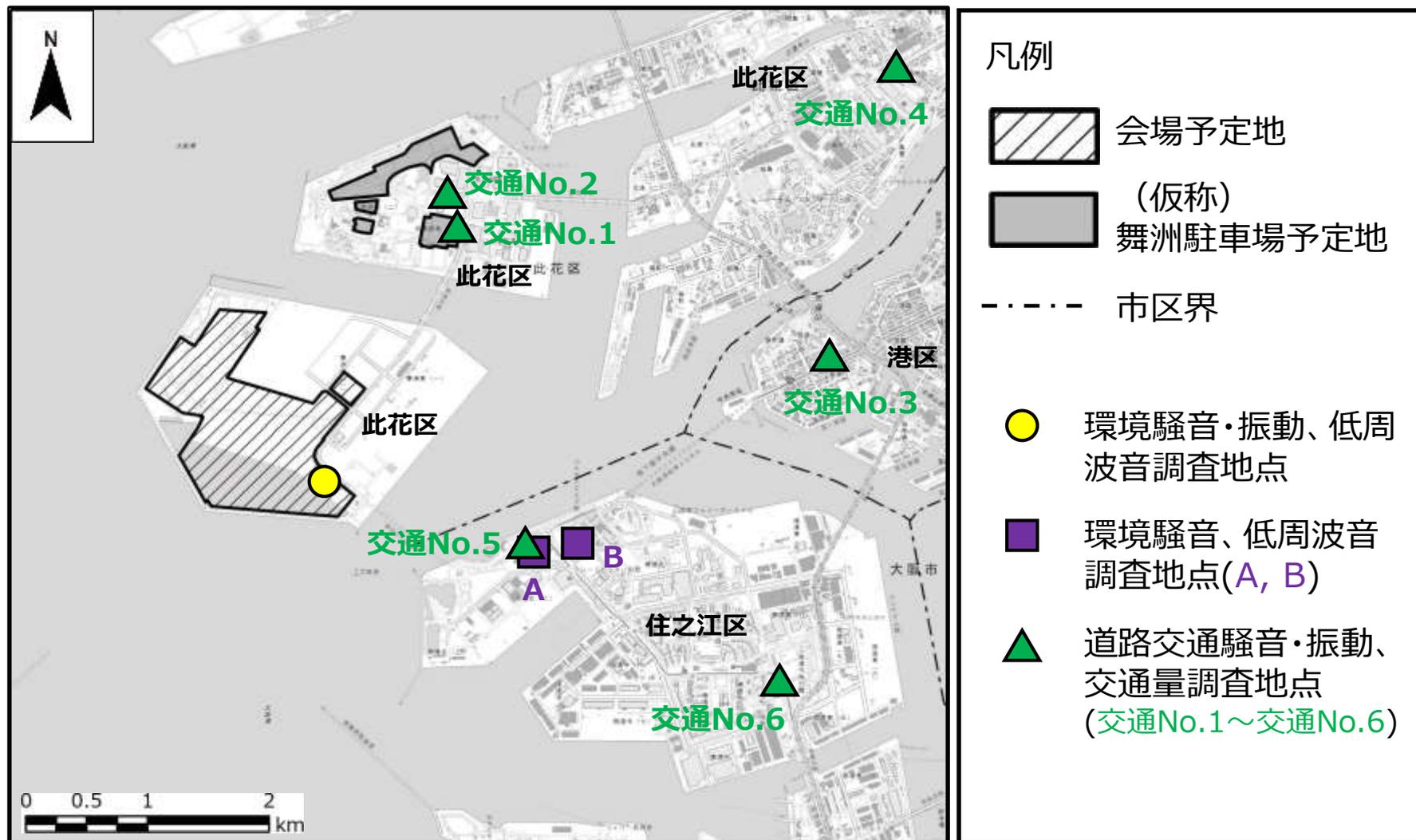
X 自然とのふれあい
活動の場

XI 夢洲関連事業との
複合的な影響

現地調査地点



現地調査地点



この地図は、国土地理院の電子地形図25000をもとに作成しました。

現地調査結果（調査の様子）

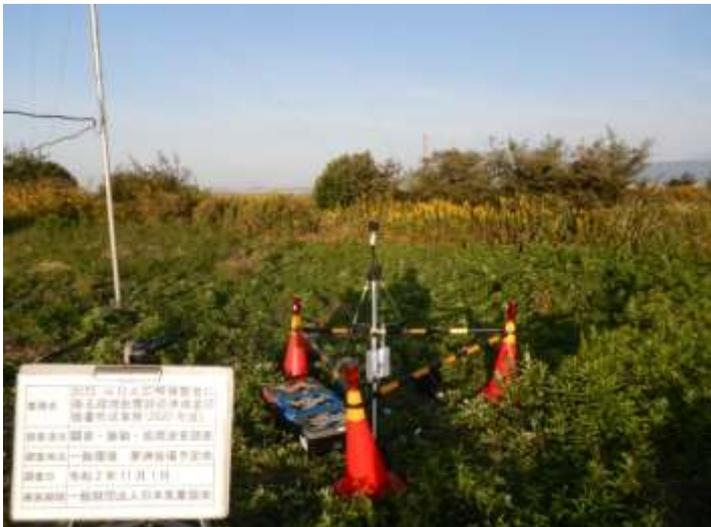
地上気象観測



水質調査



騒音・振動・低周波音の調査



交通量調査



現地調査結果（大気質）

- 会場予定地及び沿道環境3地点において、大気質調査の四季調査を行いました。

大気質の調査結果

調査地点	期間平均値		
	二酸化窒素 (ppm)	浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	二酸化硫黄 (ppm)
会場予定地	0.015	0.024	0.002
沿道No.1（臨港道路舞洲4号線）	0.021	0.022	—
沿道No.2（臨港道路コスモ北線）	0.019	0.024	—
沿道No.3（国道172号）	0.020	0.023	—

現地調査結果（水質）

■ 会場予定地周辺海域において、水質調査を行いました。

水質の調査結果

水素イオン濃度	上層	7.8～8.8	底層溶存酸素量(mg/L)	下層	1.4～10
	下層	7.9～8.1	浮遊物質(mg/L)	上層	1～7
溶存酸素量(mg/L)	上層	5.1～12		塩分	下層
	下層	1.4～8.7	上層		4.1～30.9
化学的酸素要求量 (mg/L)	上層	1.9～6.1	TOC(mg/L)	下層	28.1～32.3
	下層	1.1～2.8		上層	1.1～2.9
n-ヘキサン抽出物質 (mg/L)	上層	0.5未満	クロコフィラ(μg/L)	下層	1.0～1.7
	下層	0.5未満		上層	1.5～72
大腸菌群数 (MPN/100mL)	上層	2.0～5.4×10 ⁴	アンモニア性窒素(mg/L)	下層	0.2～20
	下層	1.8未満～2.4×10 ²		上層	0.02～0.49
全窒素(mg/L)	上層	0.28～1.3	ダイオキシン類(pg-TEQ/L)	下層	0.03～0.17
	下層	0.15～0.87		上層	0.078～0.10
全リン(mg/L)	上層	0.020～0.14	ふっ素(mg/L)	上層	0.48～0.91
	下層	0.017～0.072		下層	0.91～1.1
全亜鉛(mg/L)	上層	0.002～0.034	ほう素(mg/L)	上層	2.1～3.8
	下層	0.001未満～0.012		下層	3.7～4.4
ノニルフェノール(mg/L)	上層	0.0002未満	硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素(mg/L)	上層	0.04未満～0.65
	下層	0.0002未満		下層	0.10～0.12
直鎖アルキルベンゼンスルホン 酸及びその塩(mg/L)	上層	0.0006未満			
	下層	0.0006未満			

現地調査結果（騒音）

- 会場予定地1地点、会場予定地周辺の一般環境2地点及び関連車両主要走行ルート6地点において、現況調査を行いました。

騒音調査結果（等価騒音レベル： L_{Aeq} ）（単位：デシベル）

区分	平日		休日	
	昼間	夜間	昼間	夜間
会場予定地	52	48	48	48
一般環境	55～59	49～51	48～51	46～50

道路交通騒音調査結果（等価騒音レベル： L_{Aeq} ）（単位：デシベル）

予測地点	平日		休日	
	昼間	夜間	昼間	夜間
交通No.1(臨港道路 舞洲4号線)	64	59	59	57
交通No.2(臨港道路 舞洲2号線)	62	58	58	52
交通No.3(国道172号)	67	62	62	61
交通No.4(市道福島桜島線)	69	66	65	63
交通No.5(臨港道路 コスモ北線)	71	64	62	62
交通No.6(臨港道路 中央幹線)	67	62	64	60

現地調査結果（振動）

- 会場予定地1地点、関連車両主要走行ルート6地点において、現況調査を行いました。

振動調査結果（振動レベルの80%レンジ上端値： L_{10} ）

（単位：デシベル）

区分	平日		休日	
	昼間	夜間	昼間	夜間
会場予定地	35	22	18	17

道路交通振動調査結果（振動レベルの80%レンジ上端値： L_{10} ）

（単位：デシベル）

予測地点	平日		休日	
	昼間	夜間	昼間	夜間
交通No.1(臨港道路 舞洲4号線)	43	37	31	29
交通No.2(臨港道路 舞洲2号線)	28	22	21	17
交通No.3(国道172号)	55	47	47	39
交通No.4(市道福島桜島線)	42	38	36	35
交通No.5(臨港道路 コスモ北線)	43	29	26	21
交通No.6(臨港道路 中央幹線)	42	33	35	29

現地調査結果（低周波音）

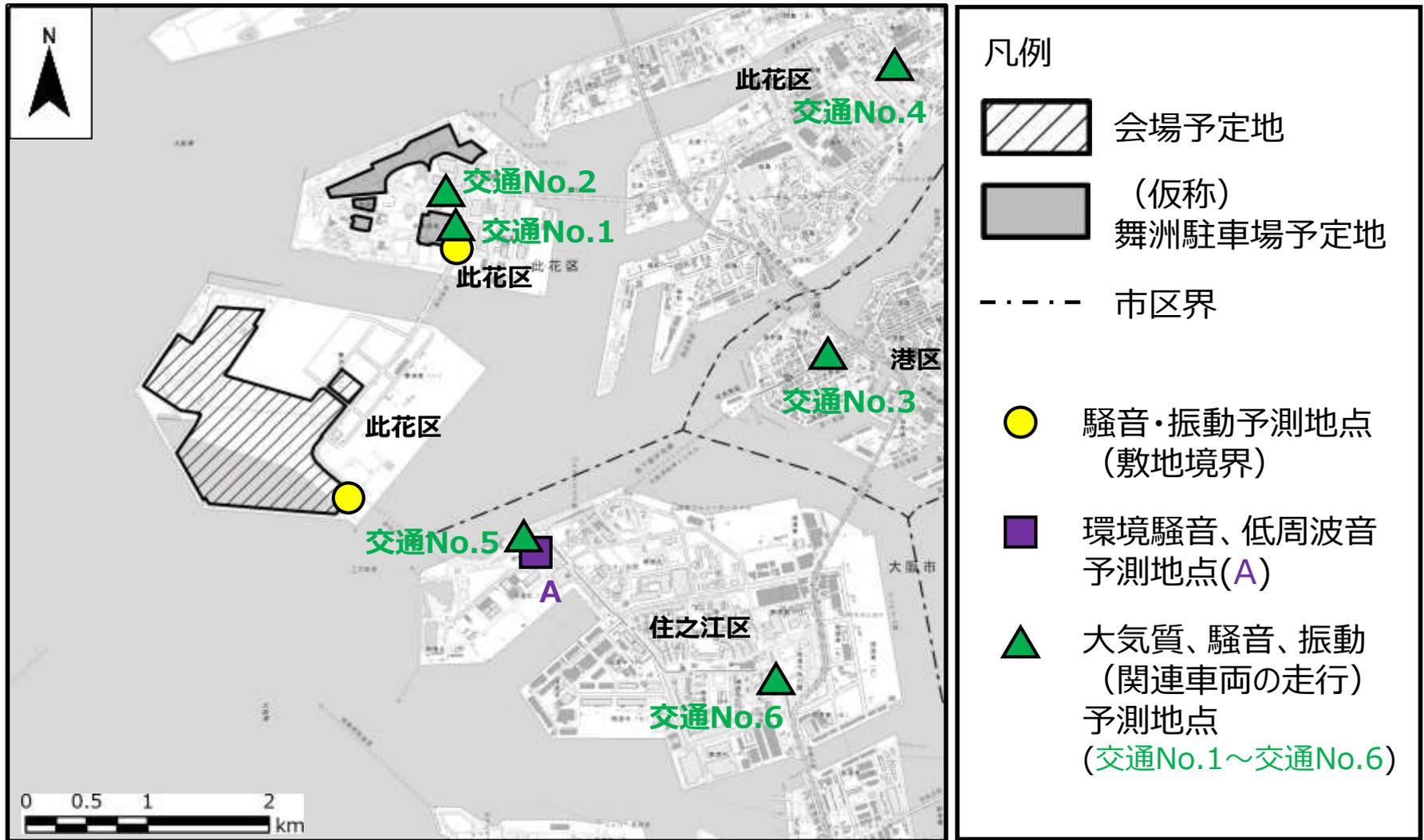
- 会場予定地1地点、会場予定地周辺の一般環境2地点において、現況調査を行いました。

低周波音調査結果（G特性音圧レベル）

（単位：dB(G)）

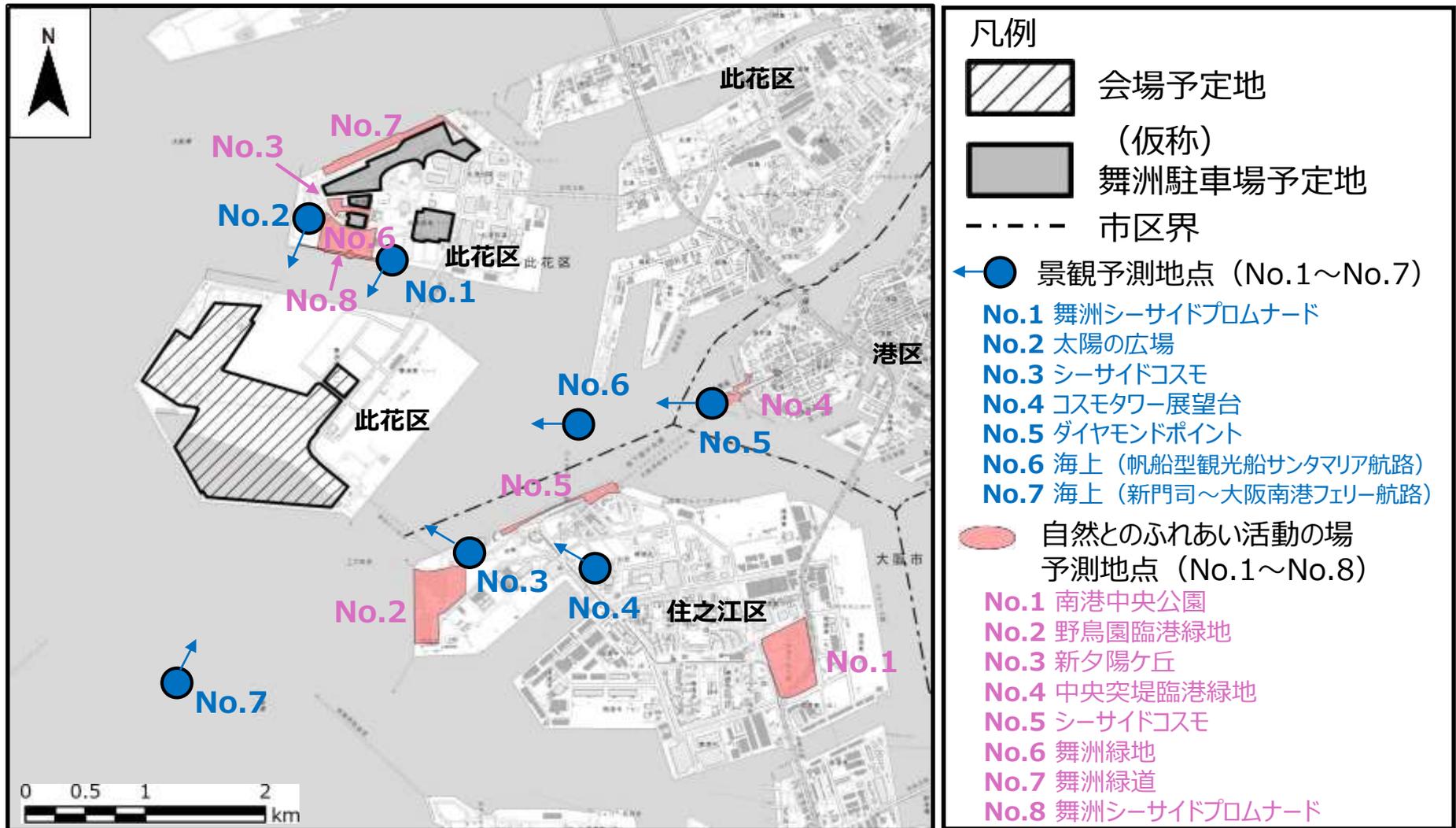
区分	平休日	昼間	夜間
会場予定地	平日	76	71
	休日	69	68
一般環境	平日	77~79	71
	休日	68	67

予測地点



この地図は、国土地理院の電子地形図25000をもとに作成しました。

予測地点



この地図は、国土地理院の電子地形図25000をもとに作成しました。

I 大気質（環境影響評価項目）

◆環境影響評価項目

影響要因 環境要素		会場予定地						（仮称）舞洲駐車場予定地					
		施設の存在	施設の利用		建設・解体 工事			施設の存在	施設の利用	建設・解体 工事			
			建築物の存在	施設の供用	施設関連車両の走行	建設機械の稼働	工事関連車両の走行			土地の改変・解体	建築物の存在	（施設関連車両の走行） 施設の供用	建設機械の稼働
大気質	二酸化硫黄					○							
	二酸化窒素		○	○	○	○			○	○	○		
	浮遊粒子状物質		○	○	○	○			○	○	○		

注 ○：選定項目

I 大気質（施設の利用による影響）

◆施設の供用により発生する排出ガスの予測結果

二酸化窒素			浮遊粒子状物質	
日平均値の 年間98%値	環境保全目標値		日平均値の 2%除外値	環境保全目標値
(ppm)	環境基準値	大阪市環境 基本計画の 目標値	(mg/m ³)	環境基準値
0.041	1時間値の 日平均値が 0.04～0.06ppm のゾーン内または それ以下であること	1時間値の 1日平均値が 0.04ppm 以下 であること	0.060	1時間値の 日平均値が 0.10mg/m ³ 以下 であること

■いずれの項目についても、予測地点において環境基準値を下回ると予測されました。

I 大気質（施設の利用による影響）

◆施設関連車両の走行及び船舶の停泊・航行により発生する排出ガスの予測結果

予測地点	二酸化窒素		浮遊粒子状物質		
	日平均値の 年間98%値	環境保全目標値		日平均値の 2%除外値	環境保全 目標値
	(ppm)	環境基準値	大阪市環境 基本計画の 目標値	(mg/m ³)	環境基準値
交通No.1 (臨港道路 舞洲4号線)	0.042	1時間値の 日平均値が 0.04~0.06ppm のゾーン内または それ以下であること	1時間値の 1日平均値が 0.04ppm 以下 であること	0.048	1時間値の 日平均値が 0.10mg/m ³ 以下 であること
交通No.2 (臨港道路 舞洲2号線)	0.039			0.050	
交通No.3 (国道172号)	0.040			0.049	
交通No.4 (市道福島桜島線)	0.041			0.050	
交通No.5 (臨港道路 コスモ北線)	0.042			0.050	
交通No.6 (臨港道路 中央幹線)	0.041			0.050	

■ いずれの項目についても、予測地点において環境基準値を下回ると予測されました。

I 大気質（環境保全措置・開催時）

◆主な環境保全措置（開催時）

- ・高速道路の利用促進への誘導を行い交通渋滞の抑制に努めます。
- ・（仮称）舞洲駐車場の事前予約制の導入を行うことで、来場時間の平準化を行い車両のピーク時間帯への集中を回避します。
- ・空ふかしの防止やアイドリングストップの励行等、大気汚染物質の排出量の低減に努めます。
- ・空調熱源については、低NOx機器を採用し、大気汚染防止に努めます。

排出ガスによる周辺環境への影響をできる限り低減する計画としており、環境保全目標を満足するものと考えます。

I 大気質（工事の実施による影響）

◆建設機械の稼働により発生する排出ガスの予測結果

二酸化窒素			浮遊粒子状物質	
日平均値の 年間98%値	環境保全目標値		日平均値の 2%除外値	環境保全目標値
(ppm)	環境基準値	大阪市環境 基本計画の 目標値	(mg/m ³)	環境基準値
0.041	1時間値の 日平均値が 0.04~0.06ppm のゾーン内または それ以下であること	1時間値の 1日平均値が 0.04ppm 以下 であること	0.060	1時間値の 日平均値が 0.10mg/m ³ 以下 であること

■ いずれの項目についても、予測地点において環境基準値を下回ると予測されました。

I 大気質（工事の実施による影響）

◆ 工事関連車両の走行及び船舶の停泊・航行により発生する排出ガスの予測結果

予測地点	二酸化窒素			浮遊粒子状物質	
	日平均値の 年間98%値	環境保全目標値		日平均値の 2%除外値	環境保全 目標値
	(ppm)	環境基準値	大阪市環境 基本計画の 目標値	(mg/m ³)	環境基準値
交通No.1 (臨港道路 舞洲4号線)	0.041	1時間値の 日平均値が 0.04~0.06ppm のゾーン内または それ以下であること	1時間値の 1日平均値が 0.04ppm 以下 であること	0.047	1時間値の 日平均値が 0.10mg/m ³ 以下 であること
交通No.2 (臨港道路 舞洲2号線)	0.039			0.050	
交通No.3 (国道172号)	0.040			0.049	
交通No.5 (臨港道路 コスモ北線)	0.042			0.050	
交通No.6 (臨港道路 中央幹線)	0.041			0.049	

■ いずれの項目についても、予測地点において環境基準値を下回ると予測されました。

I 大気質（環境保全措置・工事中）

◆主な環境保全措置（工事中）

- ・建設資材等の運搬は、車両走行ルート of 通行時間帯の配慮、運転者への適正走行の周知徹底、工事関連車両の運行管理を行います。
- ・車両走行ルートの適切な設定を行い、歩道を有する幹線道路や高速道路の利用を優先します。
- ・工事関連車両のタイヤ洗浄等により粉じんの飛散防止に努めます。
- ・船舶の航行にあたっては、航行速度の最適化に努め、高負荷運転をしないよう関係者への周知徹底を図ります。
- ・排出ガス対策型建設機械を採用するよう努め、建設機械の空ふかしの防止、アイドリングストップの励行及び同時稼働のできる限りの回避等の適切な施工管理を行います。
- ・工事の実施にあたっては、工区割を行い、できる限り影響が低減されるよう、工事の平準化に努めます。

排出ガスによる周辺環境への影響をできる限り低減する計画としており、環境保全目標を満足するものと考えます。

II 水質（環境影響評価項目）

◆ 環境影響評価項目

影響要因 環境要素		会場予定地					(仮称) 舞洲駐車場予定地				
		施設の存在	施設の利用		建設・解体 工事		施設の存在	施設の利用 (施設関連車両の走行)	建設・解体 工事		土地の改変・解体
			建築物の存在	施設の供用	施設関連車両の走行	建設機械の稼働			工事関連車両の走行	土地の改変・解体	
水質	浮遊物質					○					
	水素イオン濃度					○					

注 ○：選定項目

Ⅱ 水質（工事の実施による影響）

◆ 予測結果

建設・解体工事中に発生する排水による周辺海域の水質への予測結果は、会場予定地及び（仮称）舞洲駐車場予定地において汚水の回収や沈砂池による適切な処理を行うことにより、影響は小さいものと予測されました。

◆ 主な環境保全措置（工事中）

- ・工事中の生活排水を含む汚水は、回収を行い適正に処理します。
- ・著しい降雨時の土工は極力避け、濁水の発生が抑制されるよう努めます。
- ・工事中の雨水排水は、SSの除去を行った後に、適正に処理する計画です。
- ・また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを經由して既設の余水吐より放流する計画です。

周辺環境への影響をできる限り低減する計画としており、
環境保全目標を満足するものと考えます。

Ⅲ 土壌（環境影響評価項目）

◆ 環境影響評価項目

影響要因 環境要素	会場予定地						(仮称) 舞洲駐車場予定地					
	施設の存在	施設の利用		建設・解体 工事			施設の存在	施設の利用 (施設関連車両の走行)	建設・解体 工事			
		建築物の存在	施設の供用	施設関連車両の走行	建設機械の稼働	工事関連車両の走行			土地の改変・解体	建設機械の稼働	工事関連車両の走行	土地の改変・解体
土壌						○						

注 ○：選定項目

Ⅲ 土壌（工事の実施による影響）

◆ 予測結果

掘削により発生する土砂については原則会場内で盛土や埋め戻しに使用するため、夢洲外への搬出は行わないことから、環境への影響は小さいと予測されました。

◆ 主な環境保全措置（工事中）

- ・土壌の掘削に際しては土壌汚染対策法等に基づき散水等、土壌の飛散防止を図ります。
- ・工事関連車両の会場予定地の出場にあたっては、タイヤ等、洗浄を実施し付着した土壌の会場予定地からの持ち出しを防止します。

周辺環境への影響をできる限り低減する計画としており、環境保全目標を満足するものと考えます。

IV 騒音・振動・低周波音（環境影響評価項目）

◆環境影響評価項目

影響要因 環境要素		会場予定地						(仮称) 舞洲駐車場予定地				
		施設の存在	施設の利用		建設・解体 工事			施設の存在	施設の利用 (施設関連車両の走行)	建設・解体 工事		
			建築物の存在	施設の供用	施設関連車両の走行	建設機械の稼働	工事関連車両の走行			土地の改変・解体	建築物の存在	建設機械の稼働
騒音	等価騒音レベル等		○	○		○			○		○	
	L ₅ 等				○					○		
振動	L ₁₀ 等		○	○	○	○			○	○	○	
低周波音	G特性音圧レベル等		○									

注 ○：選定項目

IV 騒音・振動・低周波音（施設の利用による影響）

◆施設の供用により発生する騒音の予測結果（敷地境界）

（単位：デシベル）

時間区分	到達騒音レベル (L_{A5})				環境保全 目標値
	会場予定地		(仮称) 舞洲駐車場予定地		
	平日	休日	平日	休日	
朝 (6時～8時)	36	36	46	46	60
昼間 (8時～18時)	38	38	45	45	65
夕 (18時～21時)	38	38	43	43	60
夜間 (21時～6時)	38	38	45	45	55

■会場予定地及び（仮称）舞洲駐車場予定地において、環境保全目標値未
満でした。

◆施設の供用により発生する騒音の予測結果（環境地点）

（単位：デシベル）

予測地点	平休日	時間 区分	到達騒音レベル (L_{Aeq})	現況騒音レベル (L_{Aeq})	総合騒音レベル (L_{Aeq})	環境保全 目標値
一般環境 A	平日	昼間	45	59	59	60
		夜間	29	51	51	50
	休日	昼間	45	51	52	60
		夜間	29	50	50	50

■環境保全目標値を上回っている時間帯は、現況においても環境保全目標
値を上回っており、現況を悪化させない結果でした。

IV 騒音・振動・低周波音（施設の利用による影響）

◆施設の供用により発生する振動の予測結果（敷地境界）

（単位：デシベル）

時間区分	到達振動レベル (L_{10})				環境保全 目標値
	会場予定地		(仮称) 舞洲駐車場予定地		
	平日	休日	平日	休日	
昼間 (6時～21時)	38	38	38	38	65
夜間 (21時～6時)	40	40	37	37	60

■ いずれの時間区分においても、環境保全目標値未満でした。

IV 騒音・振動・低周波音（施設の利用による影響）

◆空調設備等の稼働による低周波音予測結果

(単位：dB(G))

予測地点	平休日	時間区分	到達音圧レベル	現況音圧レベル	総合音圧レベル	心身に係る苦情に関する参照値
一般環境 A	平日	昼間	37	77	77	92
		夜間	37	71	71	
	休日	昼間	37	68	68	
		夜間	37	67	67	

注：表中の値はG特性音圧レベルである。

- 総合G特性音圧レベルの予測結果は、いずれの時間区分においても、「低周波音問題対応の手引書」（環境省、平成16年）に記載されている心身に係る苦情に関する参照値である92dB(G)を下回ると予測されました。

IV 騒音・振動・低周波音（施設の利用による影響）

◆施設関連車両の走行による道路交通騒音予測結果

（単位：デシベル）

予測地点	時間区分	等価騒音レベル (L_{Aeq})				環境保全 目標値
		平日		休日		
		一般車両 + 施設関連車両	一般車両	一般車両 + 施設関連車両	一般車両	
交通No.1 (臨港道路 舞洲4号線)	昼間	68	64	67	59	70
	夜間	63	59	63	57	65
交通No.2 (臨港道路 舞洲2号線)	昼間	67	62	65	58	70
	夜間	63	58	59	52	65
交通No.3 (国道172号)	昼間	67	67	64	62	70
	夜間	63	62	62	61	65
交通No.4 (市道福島桜島線)	昼間	69	69	66	65	70
	夜間	66	66	64	63	65
交通No.5 (臨港道路 コスモ北線)	昼間	71	71	65	62	65
	夜間	64	64	62	62	60
交通No.6 (臨港道路 中央幹線)	昼間	67	67	65	64	65
	夜間	62	62	60	60	60

■ 環境保全目標値を上回っている地点は、現況においても環境保全目標値を上回っており、現況を悪化させない結果でした。

IV 騒音・振動・低周波音（施設の利用による影響）

◆施設関連車両の走行による道路交通振動予測結果

（単位：デシベル）

予測地点	時間区分	振動レベルの80%レンジ上端値 (L_{10})				環境保全 目標値
		平日		休日		
		一般車両 + 施設関連車両	一般車両	一般車両 + 施設関連車両	一般車両	
交通No.1 (臨港道路 舞洲4号線)	昼間	53	50	51	44	70
	夜間	47	45	44	41	65
交通No.2 (臨港道路 舞洲2号線)	昼間	49	45	47	39	70
	夜間	40	37	31	24	65
交通No.3 (国道172号)	昼間	51	50	47	45	70
	夜間	45	44	42	41	65
交通No.4 (市道福島桜島線)	昼間	52	52	48	47	70
	夜間	48	47	45	44	65
交通No.5 (臨港道路 コスモ北線)	昼間	53	53	47	43	70
	夜間	46	45	41	40	65
交通No.6 (臨港道路 中央幹線)	昼間	47	47	41	41	70
	夜間	37	37	33	32	65

■すべての地点及び時間区分において環境保全目標値である要請限度値未
満であり、人間の振動の感覚閾値である55デシベルを下回ると予測されました。

IV 騒音・振動・低周波音（施設の利用による影響）

◆ヘリコプターの運航による騒音の予測結果

時間帯補正等価騒音レベル（ L_{den} ）の予測結果は最大で52デシベルであり、地域の類型Ⅱにおける航空機騒音に係る環境基準値（62デシベル以下）を下回ると予測されました。

◆ヘリコプターの運航による低周波音の予測結果

低周波音の到達G特性音圧レベル最大値の予測結果は77～91デシベルであり、ISO-7196に示された感覚閾値100デシベルを下回ると予測されました。

IV 騒音・振動・低周波音（環境保全措置・開催時）

◆主な環境保全措置（開催時）

- ・高速道路への誘導を行い、交通渋滞の抑制に努めます。
- ・（仮称）舞洲駐車場の事前予約制の導入を行うことで、来場時間の平準化を行い車両のピーク時間帯への集中を回避します。
- ・空調設備等について、低騒音型の設備をできる限り採用します。
- ・必要に応じて防音壁の設置等の対策を行います。
- ・賓客用ヘリポートに関しては、極力夜間の離発着を避け、昼間に離発着できるように、関係者への呼びかけを行います。
- ・ヘリコプターの運航にあたっては、進入・出発経路が可能な限り配慮施設に接近しない経路とし、原則として開催時刻外の早朝夜間は運行しません。

周辺環境への影響をできる限り低減する計画としており、環境保全目標を満足するものと考えます。

IV 騒音・振動・低周波音（工事の実施による影響）

◆建設機械の稼働による騒音の予測結果

敷地境界での到達騒音レベルは、会場予定地では最大で81デシベル、（仮称）舞洲駐車場予定地では最大で69デシベルと予測され、特定建設作業に係る騒音の規制基準値（85デシベル）を下回ると予測されました。

◆建設機械の稼働による振動の予測結果

敷地境界における到達振動レベルは、会場予定地では最大で51デシベル、（仮称）舞洲駐車場予定地では71デシベルと予測され、特定建設作業に係る振動の規制基準値（75デシベル）を下回ると予測されました。

IV 騒音・振動・低周波音（工事の実施による影響）

◆ 工事関連車両の走行による道路交通騒音予測結果

（単位：デシベル）

予測地点	時間区分	等価騒音レベル (L_{Aeq})				環境保全 目標値
		平日		休日		
		一般車両 + 工事関連車両	一般車両	一般車両 + 工事関連車両	一般車両	
交通No.1 (臨港道路 舞洲4号線)	昼間	66	64	63	59	70
	夜間	59	59	57	57	65
交通No.2 (臨港道路 舞洲2号線)	昼間	63	62	60	58	70
	夜間	58	58	52	52	65
交通No.3 (国道172号)	昼間	67	67	63	62	70
	夜間	63	62	61	61	65
交通No.5 (臨港道路 コスモ北線)	昼間	71	71	63	62	65
	夜間	64	64	62	62	60
交通No.6 (臨港道路 中央幹線)	昼間	67	67	64	64	65
	夜間	62	62	60	60	60

- 環境保全目標値を上回っている地点は、現況においても環境保全目標値を上回っており、現況を悪化させない結果でした。

IV 騒音・振動・低周波音（工事の実施による影響）

◆ 工事関連車両の走行による道路交通振動予測結果

（単位：デシベル）

予測地点	時間区分	振動レベルの80%レンジ上端値 (L_{10})				環境保全目標値
		平日		休日		
		一般車両 + 工事関連車両	一般車両	一般車両 + 工事関連車両	一般車両	
交通No.1 (臨港道路 舞洲4号線)	昼間	51	50	48	44	70
	夜間	45	45	42	41	65
交通No.2 (臨港道路 舞洲2号線)	昼間	46	45	43	39	70
	夜間	37	37	25	24	65
交通No.3 (国道172号)	昼間	50	50	46	45	70
	夜間	44	44	41	41	65
交通No.5 (臨港道路 コスモ北線)	昼間	53	53	46	43	70
	夜間	45	45	41	40	65
交通No.6 (臨港道路 中央幹線)	昼間	47	47	41	41	70
	夜間	37	37	32	32	65

- すべての地点及び時間区分において環境保全目標値である要請限度値未満であり、人間の振動の感覚閾値である55デシベルを下回ると予測されました。

IV 騒音・振動・低周波音（環境保全措置・工事中）

◆主な環境保全措置（工事中）

- ・建設資材等の運搬は、車両走行ルート of 通行時間帯の配慮、運転者への適正走行の周知徹底を行います。
- ・車両走行ルート of 適切な設定を行い、歩道を有する幹線道路や高速道路の利用を優先します。
- ・工事関連車両の運行管理は、各関係機関等との緊密な工事調整を行う計画です。
- ・工事の実施にあたっては、工区割を行い、できる限り影響が低減されるよう、工事の平準化に努めます。
- ・低騒音・低振動型の建設機械の導入や回転圧入形式の杭工法等、騒音・振動の影響が小さい工法の採用に努めます。

周辺環境への影響をできる限り低減する計画としており、
環境保全目標を満足するものと考えます。

V 廃棄物・残土（環境影響評価項目）

◆環境影響評価項目

影響要因 環境要素		会場予定地						(仮称) 舞洲駐車場予定地				
		施設の存在	施設の利用		建設・解体 工事			施設の存在	施設の利用 (施設関連車両の走行)	建設・解体 工事		
			建築物の存在	施設の供用	施設関連車両の走行	建設機械の稼働	工事関連車両の走行			土地の改変・解体	建設機械の稼働	工事関連車両の走行
廃棄物・ 残土	廃棄物		○				○					○
	残土						○					○

注 ○：選定項目

V 廃棄物・残土（施設の利用による影響）

◆施設の利用による廃棄物発生量予測結果

	総排出 (t)	リサイクル量 (t)	処分量 (t)	リサイクル率 (%)
施設の利用	7,892	3,550	4,342	45

◆主な環境保全措置（開催時）

- ・営業施設等での容器包装等の使用量削減の推進、来場者へのマイバッグ、マイボトル等の利用の呼びかけ、分かりやすいピクトグラムによる正しいごみの分別の促進により、廃棄物の発生抑制を行います。
- ・営業施設等での調理やメニューの工夫による無駄な生ごみや食べ残し削減の推進等により食品ロスの発生抑制を行います。
- ・使い捨てプラスチック製品の使用抑制に努めます。
- ・今後、ESMS（持続可能性管理システム）の構築・導入に向けた検討方針等を踏まえて、万博会場内外で実施する実証・実装プロジェクトの内容の具体化に向けて検討していきます。

周辺環境への影響をできる限り低減する計画としており、環境保全目標を満足するものと考えます。

V 廃棄物・残土（工事の実施による影響）

◆ 建設工事、解体工事による廃棄物発生量予測結果

	総排出量 (t)	リサイクル量 (t)	処分量 (t)	リサイクル率 (%)
建設工事	26,153	23,382	2,771	89
解体工事	895,289	880,168	15,121	98

◆ 主な環境保全措置（工事中）

- ・パビリオン建築にかかるガイドラインを策定し、建築資材のリサイクルの推進に努めます。
- ・できる限り場内で種類ごとに分別し、中間処理業者に引き渡すことにより再生骨材、路盤材、再生チップ等としてリサイクルを図ります。
- ・使用する建設資材等については、できる限りリサイクル製品を使用するものとし、建設リサイクルの促進についても寄与できるよう努めます。
- ・梱包資材の簡素化による廃棄物の発生抑制や分別コンテナによる廃棄物分別により廃棄物の減量化に努めます。

周辺環境への影響をできる限り低減する計画としており、環境保全目標を満足するものと考えます。

VI 地球環境（環境影響評価項目）

◆ 環境影響評価項目

影響要因 環境要素	会場予定地						(仮称) 舞洲駐車場予定地					
	施設の存在	施設の利用		建設・解体 工事			施設の存在	施設の利用 (施設関連車両の走行)	建設・解体 工事			
		建築物の存在	施設の供用	施設関連車両の走行	建設機械の稼働	工事関連車両の走行			土地の改変・解体	建設機械の稼働	工事関連車両の走行	土地の改変・解体
地球環境		○										

注 ○：選定項目

VI 地球環境（施設の利用による影響）

◆環境保全対策の有無による二酸化炭素排出量の予測結果

	二酸化炭素排出量 (t-CO ₂ /期間)
環境保全対策を講じない場合	53,574
環境保全対策を講じた場合	38,992
削減量 (削減率)	14,582 (27.2%)

◆主な環境保全措置（開催時）

- ・施設の利用にあたっては、太陽光発電等の再生可能エネルギーの導入等の検討を行い、さらなる温室効果ガスの排出抑制に努めます。
- ・今後、ESMS（持続可能性管理システム）の構築・導入に向けた検討方針等を踏まえて、万博会場内外で実施する実証・実装プロジェクトの内容の具体化に向けて検討していきます。

周辺環境への影響をできる限り低減する計画としており、
環境保全目標を満足するものと考えます。

VII 陸域動物・陸域植物・陸域生態系（環境影響評価項目）

◆環境影響評価項目

影響要因 環境要素	会場予定地						(仮称) 舞洲駐車場予定地				
	施設の存在	施設の利用		建設・解体 工事			施設の存在	施設の利用	建設・解体 工事		
	建築物の存在	施設の供用	施設関連車両の走行	建設機械の稼働	工事関連車両の走行	土地の改変・解体	建築物の存在	施設の供用 (施設関連車両の走行)	建設機械の稼働	工事関連車両の走行	土地の改変・解体
陸域動物		○		○		○			○		○
陸域植物						○					○
陸域生態系		○		○		○			○		○

注 ○：選定項目

VII 陸域動物・陸域植物・陸域生態系（調査結果）

現地調査による陸域動物の調査結果

項目	確認種数	会場予定地及び (仮称) 舞洲駐車場予定地において 確認された重要な種
哺乳類	2目3科4種	カヤネズミ
鳥類	12目35科 114種	ツクシガモ、ヘラサギ、ヒクイナ、シロチドリ、メダイチドリ、セイタカシギ、オオソリハシシギ、ツルシギ、タカブシギ、サルハマシギ、ハマシギ、ツバメチドリ、ズグロカモメ、コアジサシ、ミサゴ、チュウヒ、ハイタカ、ハヤブサ 等 計52種
爬虫類	2目5科5種	確認なし
両生類	1目3科3種	確認なし
昆虫類	15目180科 591種	マイコアカネ、コオイムシ、ケシゲンゴロウ、コガムシ、チャイロムナボソコメツキ、ツシマヒメサビキコリ、カワイヒラアシコメツキ、キバラハキリバチ
底生生物	7網14目33科 65種	確認なし

陸域動物の調査（鳥類）



陸域動物の調査（哺乳類）



VII 陸域動物・陸域植物・陸域生態系（調査結果）

現地調査による陸域植物の調査結果

項目	確認種数 群落等の区分数	会場予定地及び予定地境界付近において確認された 重要な種・重要な群落
植物相	86科362種	ツツイトモ、コガマ、ヒトモトススキ、カワチシャ、カワツルモ
植生	12区分	確認なし

陸域植物の調査（植物相）



陸域植物の調査（植生）



業務名 2025年日本国際博覧会に係る環境影響評価事務調査
 調査項目 陸域植物 植生調査
 調査期間 令和2年7月16日
 実施機関 一般社団法人日本国際博覧会協会

Ⅶ 陸域動物・陸域植物・陸域生態系（施設の利用による影響）

◆ 予測結果の概要

会場予定地及び（仮称）舞洲駐車場予定地において確認された重要な陸域動物については、環境の保全及び創造のための措置を確実に実施することにより影響は小さいと予測されました。

◆ 主な環境保全措置（開催時）

- ・空調設備等は可能な限り低騒音型及び低振動型の設備を採用します。
- ・適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、会場予定地外及び（仮称）舞洲駐車場予定地外に生息・生育する動植物への影響を可能な限り低減します。
- ・グリーンワールドや静けさの森には緑地を設置することにより動物が利用可能な空間とします。
- ・ウォーターワールドは、水辺に生息する鳥類に配慮して開放水面を出来るだけ確保します。

周辺環境への影響をできる限り低減する計画としており、環境保全目標を満足するものと考えます。

Ⅶ 陸域動物・陸域植物・陸域生態系（工事の実施による影響）

◆ 予測結果の概要

会場予定地及び（仮称）舞洲駐車場予定地周辺において確認された重要な陸域動物、植物については、工事の実施にあたって環境の保全及び創造のための措置を確実に実施することにより影響は小さいと予測されました。

◆ 主な環境保全措置（工事中）

- ・建設機械は、可能な限り低騒音型、低振動型を使用します。
- ・夜間工事を行う場合には、工事を最小限にとどめ、適切な遮光フードの採用、照明器具の適正配置により、周辺に生息・生育する動植物への影響を可能な限り低減します。
- ・会場予定地内の工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を經由させることで、SSの除去を行います。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを經由して既設の余水吐より放流します。

周辺環境への影響をできる限り低減する計画としており、
環境保全目標を満足するものと考えます。

Ⅶ 陸域動物・陸域植物・生態系（環境保全措置）

◆環境保全措置（カヤネズミ）

工事開始前に草刈りを行う際、既存事例に基づき草地の中央付近から周辺へ進め作業を複数回に分けて実施します。



カヤネズミ

◆環境保全措置（コアシサシ）

- ・会場予定地内及び（仮称）舞洲駐車場予定地内において飛来が確認された場合には、「コアシサシ繁殖地の保全・配慮指針」に基づき、防鳥ネットによる被覆等の営巣防止対策を実施します。また、営巣が確認された場合には、付近を原則立入禁止とする等、配慮、対策を行っていきます。
- ・なお、コアシサシが好む裸地など繁殖可能な場所の確保について検討を行うこととします。



コアシサシ

Ⅶ 陸域動物・陸域植物・生態系（環境保全措置）

◆環境保全措置（カワツルモ）

生育が確認された場所は、大阪港湾局が今後、地盤改良工事を実施する予定区域内であり、大阪港湾局が有識者に相談し対応を検討しています。

このため、今後の大阪港湾局の検討・対応状況を確認し、土地貸与後の工事開始前に生育状況の確認を行い、生育が確認された場合は有識者の指導に基づき、対応を検討します。



カワツルモ

出典：「夢洲の塩性湿地とそこに生きる植物たち；都市と自然523号 2020年12月・2021年1月」（公益社団法人大阪自然環境保全協会、写真：大阪市立自然史博物館 長谷川匡弘）

◆環境保全措置（ヒトモトススキ、コガマ、カワヂシャ）

工事開始前に生育状況の確認を行い、生育が確認された場合は有識者の指導に基づき標本保存や移植など適切に対応を行います。



カワヂシャ

VIII 海域動物・海域植物・海域生態系（環境影響評価項目）

◆ 環境影響評価項目

影響要因 環境要素	会場予定地						(仮称) 舞洲駐車場予定地				
	施設の存在	施設の利用		建設・解体 工事			施設の存在	施設の利用 (施設関連車両の走行)	建設・解体 工事		
		建築物の存在	施設の供用	施設関連車両の走行	建設機械の稼働	工事関連車両の走行			土地の改変・解体	建設機械の稼働	工事関連車両の走行
海域動物						○					
海域植物						○					
海域生態系						○					

注 ○：選定項目

Ⅷ 海域動物・海域植物・海域生態系（工事の実施による影響）

◆ 予測結果の概要

夢洲周辺海域において確認された重要な海域動物については、工事の実施にあたって環境の保全及び創造のための措置を確実に実施することにより影響は小さいと予測されました。

◆ 主な環境保全措置

- ・会場予定地周辺海域において、浚渫及び埋立は行いません。
- ・会場予定地内の工事中の雨水等は、会場予定地内南側のウォーターワールド予定地に流入させ、同地内を経由させることで、SSの除去を行う計画とします。また、コンクリート打設等に伴うアルカリ性の排水はpH調整を行った後にウォーターワールドを経由して既設の余水吐より放流する計画とします。

周辺環境への影響をできる限り低減する計画としており、
環境保全目標を満足するものと考えます。

IX 景観（環境影響評価項目）

◆ 環境影響評価項目

影響要因 環境要素	会場予定地						(仮称) 舞洲駐車場予定地				
	施設の存在	施設の利用		建設・解体 工事			施設の存在	施設の利用 (施設関連車両の走行)	建設機械の稼働	工事関連車両の走行	土地の改変・解体
		建築物の存在	施設の供用	施設関連車両の走行	建設機械の稼働	工事関連車両の走行					
景観	○										

注 ○：選定項目

IX 景観（施設の存在による影響）

◆コスモタワー展望台からの景観の予測結果

現況



施設完成後



IX 景観（環境保全措置）

◆ 主な環境保全措置

- ・パビリオン等の建設にあたっては、原則として高さ制限を設ける等、大阪港の景観形成や夕陽への影響に配慮を行います。
- ・博覧会開催時間には夜間も含まれていますが、夜間においても周囲への影響を少しでも和らげるようなソフトなライトアップにより、親しみのある夜間景観を創出するよう努めます。

周辺環境への影響をできる限り低減する計画としており、
環境保全目標を満足するものと考えます。

X 自然とのふれあい活動の場（環境影響評価項目）

◆ 環境影響評価項目

影響要因 環境要素	会場予定地						(仮称) 舞洲駐車場予定地				
	施設の存在	施設の利用		建設・解体 工事			施設の存在	施設の利用 (施設関連車両の走行)	建設機械の稼働	工事関連車両の走行	土地の改変・解体
		建築物の存在	施設の供用	施設関連車両の走行	建設機械の稼働	工事関連車両の走行					
自然とのふれあい活動の場			○		○			○		○	○

注 ○：選定項目

X 自然とのふれあい活動の場

◆ 施設の利用による影響の予測結果

- 施設関連車両の走行に伴い影響を及ぼすことが想定される大気質等の各項目は環境保全目標を満足しており、影響は小さいと予測されました。
- 車両によるアクセスルートの分断・消滅はなく、徒歩ルートも適切に確保されており、自然とのふれあい活動の場へのアクセスに対する影響は小さいと予測されました。

◆ 工事の実施による影響の予測結果

- 自然とのふれあい活動の場の消滅の有無と改変の程度については、ふれあい活動の場の改変は行わないこと等から影響はないと予測されました。
- 工事関連車両の走行に伴い影響を及ぼすことが想定される大気質等の各項目は環境保全目標を満足しており、影響は小さいと予測されました。
- 車両によるアクセスルートの分断・消滅はなく、徒歩ルートも適切に確保されており、自然とのふれあい活動の場へのアクセスに対する影響は小さいと予測されました。

X 自然とのふれあい活動の場

◆ 主な環境保全措置（開催時）

- ・主要ターミナル駅からのシャトルバスやパークアンドライドバスを導入することにより来場者等の車両台数の低減や車両交通流の円滑化を図ります。
- ・（仮称）舞洲駐車場においては、原則事前予約制の導入を行うことで、来場時間の平準化を行い車両のピーク時間帯への集中を回避します。

◆ 主な環境保全措置（工事中）

- ・工事関連車両の運行にあたっては、乗り合いを推進すること、朝夕の通勤により混雑する時間帯をできる限り避けることにより工事関連車両の車両台数の低減を図ります。
- ・工事関連車両運転者に対しては、歩行者等の優先の徹底、交差点進入時、右左折時における歩行者等の安全確認の徹底等の交通安全教育を徹底します。

周辺環境への影響をできる限り低減する計画としており、環境保全目標を満足するものと考えます。

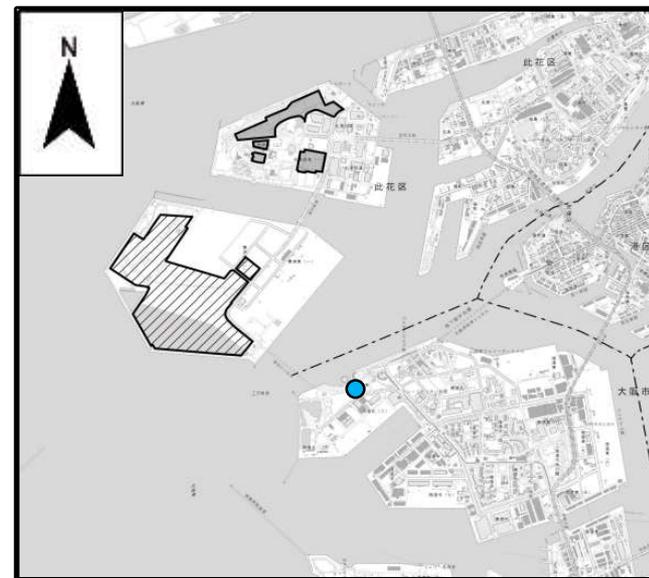
XI 夢洲関連事業との複合的な影響

◆ 予測結果の概要

- 夢洲関連事業との複合的な影響について、供用中及び工事中の車両走行に伴う影響について参考として試算しました。本試算は、大阪市より情報提供された夢洲関連事業の環境影響が最大となる時期と本事業の環境影響が最大となる時期を重ねた場合の試算です。

【騒音（供用中及び工事中）】

- 図の地点においては、現時点でも環境保全目標値を超過しており、複合影響の試算を行ったところ、1～2デシベル悪化させる結果となりました。
- この結果は、最大となる時期を全て重ねた場合の試算であり、実際に夢洲関連事業が実施され、現況を悪化させる状況が予測される場合においても、大阪市は大阪港港湾計画で計画される騒音対策等を実施することとしており、環境保全目標を満足すると考えられます。



この地図は、国土地理院の電子地形図25000をもとに作成しました。

本事業においては、施設関連車両、工事関連車両の走行にあたっては、先にご説明した各項目の環境保全措置を講じ、周辺環境への影響をできる限り低減する計画としています。

3. 環境影響評価結果

3-1. 調査、予測及び評価の結果

3-2. 総合評価

3-3. 事後調査の方針

総合評価

大気質、水質、土壌、騒音、振動、低周波音、廃棄物・残土、地球環境、動物、植物、生態系、景観、自然とのふれあい活動の場について、事業の実施が事業計画地周辺の環境に及ぼす影響について予測を行った結果、いずれの項目についても環境保全目標を満足するものと評価します。

3. 環境影響評価結果

3-1. 調査、予測及び評価の結果

3-2. 総合評価

3-3. 事後調査の方針

事後調査の方針

◆本事業の実施にあたっては、事後調査を行うことを計画しています。

＜施設の利用＞

- 道路交通騒音・振動・交通量
- 博覧会開催による騒音
- 廃棄物
種類別発生量・排出量
- 地球環境
エネルギー消費量

＜建設・解体工事中＞

- 建設機械・工事関連車両の台数等
- 道路交通騒音・振動・交通量
- 建設作業騒音・振動
- 廃棄物・残土
種類別発生量・排出量
- 陸域動物
鳥類の飛来状況の確認（コアジサシ）
- 陸域動物、陸域植物
動物、植物の生息状況・生育状況
（重要種）

4 . 環境影響評価準備書の 縦覧について

環境影響評価準備書の縦覧を行っています。

◆縦覧期間：令和3年10月1日（金）から同年11月1日（月）まで

◆縦覧場所及び縦覧時間

縦覧場所	住所等		縦覧時間
此花区役所	此花区春日出北1-8-4 此花区役所1階 区民情報コーナー	TEL 06-6466-9683	午前9時～ 午後5時30分 (土曜日、日曜日を除く)
港区役所	港区市岡1-15-25 港区役所1階 区民情報コーナー	TEL 06-6576-9683	
住之江区役所	住之江区御崎3-1-17 住之江区役所1階 区民情報コーナー	TEL 06-6682-9683	
公益社団法人2025年 日本国際博覧会協会	住之江区南港北1-14-16 大阪府咲洲庁舎43階	TEL 06-6625-8674	
環境局環境管理部 環境管理課	大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビルO's棟南館5階	TEL 06-6615-7938	
環境局総務部総務課	大阪市阿倍野区阿倍野筋1-5-1 あべのルシアス13階	TEL 06-6630-3113	

◆環境影響評価準備書及び要約書は、大阪市環境局ホームページでもご覧いただけます。

大阪市環境局ホームページ

URL : <https://www.city.osaka.lg.jp/kankyo/page/0000544704.html>

5 . 意見書提出先

◆受付期間：令和3年10月1日（金）から同年11月15日（月）まで

◆提出先及び提出方法

意見書提出先		提出方法
大阪市長に 対して意見を 述べる方	環境局環境管理部環境管理課 〒559-0034 大阪市住之江区南港北2-1-10 ATCビルO's棟南館5階	持参※ ¹ 、送付、 FAX（06-6615-7949）、 オンライン受付※ ²
事業者に 対して意見を 述べる方	公益社団法人 2025年日本国際博覧会 協会 整備局整備部整備計画課 〒559-0034 大阪市住之江区南港北1-14-16 大阪府咲洲庁舎43 階	持参※ ¹ 、送付、オンライン受付※ ² FAX（06-6625-8737）、 Eメール (kankyo_assess@expo2025.or.jp)

※¹ 持参により意見書を提出する場合は、土曜日、日曜日及び祝日を除く午前9時から午後5時30分まで

※² オンライン受付にあたっては、大阪市行政オンラインシステム（下記URL又はQRコード）をご利用ください。
(URL:<https://lgpos.task-asp.net/cu/271004/ea/residents/procedures/apply/b276ea56-47e4-402a-ae7-12d5ddfefc90/start>)



ご清聴ありがとうございました